

青梅街道を歩く⑥白丸駅～奥多摩湖

開催日：2025年6月14日（土）曇り時々小雨 やや健脚 23000歩 約15Km

集合：JR青梅線白丸駅 10時30分

コース：白丸駅→十一面観音堂→数馬の切通し→大天狗神社→新青梅街道→旧青梅街道・数馬隧道→海沢橋→日向の馬頭さま→奥多摩ビジターセンター→奥氷川神社・氷川三本杉→氷川大橋→氷川宿→奥多摩むかし道入口→槐木休憩所・昼食タイム→桧村→不動の上滝→白髭神社→しだくら吊橋→道所吊橋→西久保の切り返し→青目不動尊→水根→奥多摩水と緑のふれあい館→奥多摩湖バス停（バス）→奥多摩駅

参加者：熊坂L 飯倉SL 勅使河原 平石 河野 市村 奥村 畠 脇坂 大城 高津佐 中西 佐藤し 白田 稲葉 平方 計16名

「青梅街道を歩く」6回目は、JR青梅線白丸駅から奥多摩湖までのコース。まずは、江戸時代元禄の頃に開墾された数馬の切り通しへ、いにしえの人が歩いた切り通しを体験。切り通しを下りて青梅街道6番目の宿場になる氷川宿へ、ここからはリーダーの呼びかけにあった3回目の奥多摩むかし道に入りました。

配付された奥多摩むかし道の地図に「奥多摩むかし道は、旧青梅街道と呼ばれた道で氷川から小河内に達するまでの道です。この街道は、小菅から大菩薩峠を越えて甲州に至る甲州裏街道で甲州街道より8km近道であったそうです」と記述されています。「この道をどんな人々が行きかけたのか」と、いにしえの人に思いを馳せながら時折小雨降る奥多摩むかし道を歩きました。



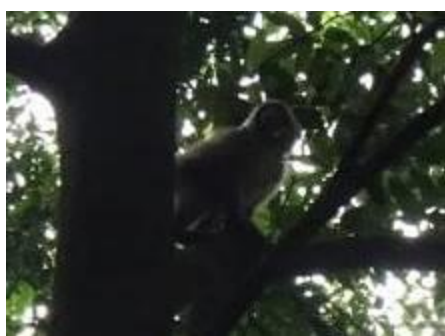
白丸駅10時10分～十一面観音堂～マタタビ～数馬の切り通し

都内で一番乗降客数が少ない白丸駅、そのホームで熊坂リーダーがコース説明。10時10分にスタート、駅前の「白丸散策マップ」の案内板を見て数馬の切り通しへ向かいます。予報では雨は夕方からのはずでしたが小雨がパラつき始めました。少し進んで、前方に奥多摩槍と呼ばれている尖った山の天地山が見えてきました。白丸で活動した修験者の守護仏として祀られてきた十一面観音菩薩立像の観音堂へ。リーダーが葉の一部が白くなっているマタタビについて説明してくれました。山道に入り奥深く進んで行き、「江戸時代元禄の頃に切り通しが開墾され、奥地との物流交流が可能になった」という数馬の切り通しに着きました。



大天狗神社～新青梅街道～旧青梅街道・素掘りの数馬隧道

数馬の切り通しで集合写真を撮影、切り通しの先の道は新青梅街道の白丸トンネルを作るために遮断されて行き止まりになってしまっています。参道を上り大天狗神社へ、神社正面の大きな岩場は迫力があります。境内からは、下に国道411号（新青梅街道）見えました。参道を下りて、来た道に戻ります。何やらけたたましい鳴き声、人なれしていないのか小さなサルがあつという間に木を上って行きました。ズームで連写、何とか写すことができました。サルはこの後の街道歩きで2回ほど見かけました。新青梅街道に下りて、西へ進みます。昭和48年に完成した長さ124mの白丸トンネルが見えてきました。私たちは左の旧青梅街道に入り、大正5年に開かれた素掘りの数馬隧道に足を進めました。



新青梅街道を西へ～海沢橋～日向の馬頭さま～奥多摩ビジターセンター

数馬隧道をくぐり抜けて、再び新青梅街道を西へ。海沢橋を通過、傍らに「海から81.2km」の多摩川標柱が建っていました。大山祇神社を参拝、日向の馬頭さま前へ、説明板に「当初は現国道より十数メートル上部の旧道に建立されていたが、現国道が昭和2年～4年に改修されたときに移築されて、通行する人々の安全を見守っている」と書かれていました。奥多摩温泉もえぎの湯前を通過、またまたサル出現、あっという間に山肌を上って行きカメラに収めることはできず。11時37分に奥多摩ビジターセンターへ、水分補給とトイレ休憩です。センター前に「秩父多摩国立公園パノラマ山系」のモニュメントがありました。



奥多摩交番・山岳救助隊～奥氷川神社・氷川三本杉～氷川大橋～氷川宿

ビジターセンターを出て交差点を渡ると、右手に奥多摩交番があり「山岳救助隊」の看板が目に入りました。奥氷川神社へ、根本近くから三本に分岐した圧倒的存在の氷川三本杉が、すくと伸びて高さは約43m。氷川大橋を渡ると旅館や旧家が續いていて趣がある雰囲気、この辺りが氷川宿の中心だったのでしょうか。商店街のテント張りの出店が出ている前を通り12時丁度、奥多摩むかしみち入り口に到着。



奥多摩むかしみち 12時00分～12時20分 槐木休憩所・昼食タイム

奥多摩むかし道は、旧青梅街道と呼ばれていた道で氷川から小河内に達するまでの道です。①の標識からスタート、いきなりの急登の羽黒坂を上りきるとトロッコの廃線跡がありました。いにしえの人々が歩いた山あいの上り道へ、小雨が降ったり止んだり。舗装路に出て12時20分、サイカチの木がある槐木（さいかちぎ）の休憩所（写真2枚はいずれも2023年9月30日撮影）に到着。説明板に「羽黒坂の急坂と桧村からの坂を登り詰めたところの槐木の巨樹が地名となりました。馬力・大八車や背負荷の上り荷・下り荷の人々の休み場として賑わったところですよ」と書かれています。私たちもここで昼食タイムとしました。



12時50分～緑豊かな緩やかな下り道～桧村～ひむら浄水場～急な石段

話しが弾んだ昼食タイムも終わり12時50分、スタートです。進行方向左はるか下の新青梅街道沿いに住宅が垣間見えます。苔も生えている緑豊かな緩やかな下り道が続き15分ほど進むと④の標識、左に下ると新青梅街道で交番や桧村バス停がある住宅街です。右上に上ると道標があり「右さいかちぎ 奥多摩駅」「左さかい 小河内温泉」「南氷川宿 奥多摩村」と判読できます。集落に入り、ひむら浄水場前を通り急な石段を下りて集落を抜けます。小休憩、大分蒸し暑くなりました。右側の岩肌には苔がびっしりと貼りついています。水分補給をして先に進みます。



小中沢橋・不動の上滝～13時40分白髭神社・白神の大岩

10分ほど歩いて小中沢橋に到着。落差7mの不動の上滝、水しぶきによるマイナスイオンを浴びて涼を感じます。旧道下に不動尊が祀られていることから不動の上滝と名づけられました。ここにも公衆トイレがあります。むかし道のトイレはきれいに清掃されていて気持ちが良いです。右上高く、廃線になった鉄橋が残っていました。13時40分、白髭神社に到着。長い石段参道を上って行き、社殿に到着。北側に長さ約20m、高さ約5mにわたって白神の大岩が露呈して境内は狭隘です。参拝後、リーダーが集合写真を撮影して参道を下ります。地図を見ると神社の下を新青梅街道の白髭トンネルが通っています。



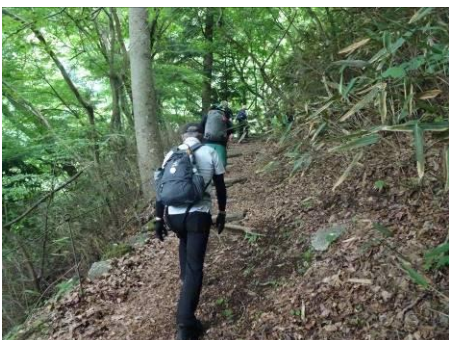
弁慶の腕ぬき岩～いろは楓の巨樹～惣岳の不動尊～しだくら吊橋

弁慶の腕ぬき岩を見学、たしかに腕が入るほどの穴が開いていました。樹齢200年ぐらいといわれているいろは楓の巨樹へ、11月中・下旬が見頃で今は青葉。写真は2023年11月18日に行われた「奥多摩むかし道を歩く」のときに撮影した見事な紅葉です。民家の庭に色とりどりの花が咲き誇っていて黒いアゲハ蝶が蜜を吸っていました。明治時代に成田不動尊を勧請祭祀した惣岳の不動尊を参拝してさらに進みます。しだくら吊橋へ到着、「この橋を渡る際は、安全上2人までとさせていただきます。奥多摩町」の注意書きが出ています。二人ずつで吊橋歩行体験、5組ほどが中央辺りまで行き水面を眺めて引き返してきました



馬の水飲み場～道所吊橋～ベンチのある木陰～西久保の切り返し～急な上り坂～⑩標識

吊橋からの景観を楽しんで、縁結び地蔵尊、3軒あった茶屋の廃屋、馬の水飲み場へと進みます。説明板に「ここで馬を休ませ、かいばを与えました。馬方衆は茶店で一服休憩」と書かれています。昭和のいつごろまでその風景が見えたのでしょうか、趣のある道です。道所吊橋へ、ここも通行は2人まででした。ベンチのある木陰に出て小休憩、14時55分にスタート。西久保切り返しを通りアスファルト道を直進すれば新青梅街道に出ますが、左の旧青梅街道に入ります。土の感触が心地よいのですが急な上り坂が続きます。上りきったところに民家があり、⑩標識がある景観の良い高台に出ました。水分補給をして一息入れます。



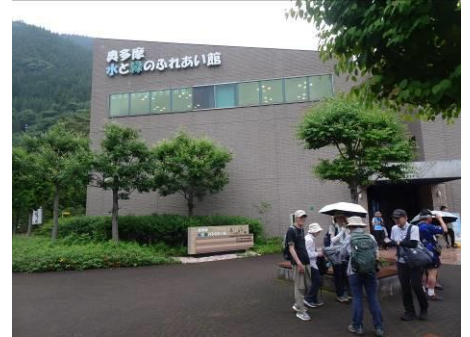
下って上って青目不動尊～林道～16時00分奥多摩むかし道を下山～水根バス停

奥多摩むかし道の地図で見ると、ここは標高約600m、休憩場所の標高は440m、160mほどを上ってきました。ここからはしばらく緩やかな下り道、ところが左側は深く切り込んだ溪谷、鉄パイプの柵が安全歩行の頼りです。「いにしえの人が歩いたときは柵などなかったのだろう」と思い馳せました。そして青目不動尊へ向かう上り道、上りきったところに⑱の標識。小休憩をして下って行き、林道に出ました。ゴール間近、みなさんも少しリラックスモード、民家もチラホラ出てきました。左手下に奥多摩湖が見えてきました。16時丁度に奥多摩むかし道を下山、水根バス停のところで新青梅街道の横断歩道を渡ります。



16時5分 奥多摩水と緑のふれあい館・奥多摩湖バス停～奥多摩駅

また小雨が降り始めました。16時5分、奥多摩湖湖畔の奥多摩水と緑のふれあい館に到着。奥多摩湖は水を満々と蓄えていました。熊坂リーダーから「次回（第7回）は来年の4月25日、10回目の最終は11月21日～22日」などと今後の予定などが周知されました。16時8分発のバスが少し遅れて到着、20分弱で奥多摩駅に到着。16時32分発の青梅行き電車で帰路につきました。歩数2万3000歩の「青梅街道を歩く⑥」でした。



クラブとして3回目となる奥多摩むかし道、1回目は2018年5月27日の「多摩川を歩く⑧」、参加者25名。今回のメンバーでは6名（勅使河原、平石、熊坂、河野、市村、畠）が歩いていました。2回目は2023年11月18日、紅葉の「奥多摩むかし道を歩く」、奥多摩湖からの逆コースで参加者22名。3回ともリーダーは熊坂さん、熊坂さんは下見を含めて6回目のむかし道か、私は2回目の下見に同行したので4回目のむかし道、飯倉さんは2回目と今回の下見に同行したので4回目のむかし道だと思います。道は時の流れとともに変遷していきますが、いつまでも残しておいて欲しい道です。季節が変わり、歩く仲間が変わり、毎回思い出深い奥多摩むかし道です。（市村記）